

令和2年度 第1回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：令和2年6月5日（金）14:30～17:30

2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 201 会議室

3. 出席者：

（委員）

近藤議長、上村委員、喜連川委員、鹿野委員、昌子委員、
千葉委員、永井委員

（事務局）

三島理事長、梶尾理事、真先執行役、難波統括役、阿蘇経営企画部長、橋本総務部長、吉徳経理部長、松澤研究公正・業務推進部長、浅野実用化推進部長、野田国際戦略推進部長、岩本研究開発統括推進室長、竹上医療機器・ヘルスケア事業部長、鎌田再生・細胞医療・遺伝治療事業部長、水野ゲノム・データ基盤事業部長、一瀬疾患基礎研究事業部長、奈良坂シーズ開発・研究基盤事業部長、林革新基盤創成事業部長、保坂経営企画部次長、釜井創薬事業部次長、宮川疾患基礎研究課長

4. 議事

1. 議長の選出について

2. AMEDの第2期の取組及び新型コロナウイルス感染症対策に関連する
AMEDの研究開発について

3. AMEDの自己評価（令和元年度及び中長期目標期間）について

4. その他

5. 議事の概要

【議事1. 議長の選出について】

事務局より参考資料12の研究・経営評議会の規則の説明を行い、委員の互選により、近藤委員が議長に選任され、その後議事2に移った。

【議事2. AMEDの第2期の取組及び新型コロナウイルス感染症対策に関連するAMEDの研究開発について】

事務局より資料1から参考資料7を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 国立情報学研究所が所有する画像共有システムに、3月頃からアノテーションがコロナとついで肺画像等が複数の病院から提供されているが、学術情報ネットワーク（SINET）につながらない病院の診療データを共有することで、AIの研究開発を加速できるのではないかと。病院によっては研究に参加しないという判断があるかもしれないが、それとデータの共有は別話であり、諦めないよう取り組んでいただきたい。
- 大学の話になるが初めて地方から東京に来て、友達が誰もいない、大学にも行ったことがないという子供が遠隔授業から始まるといった厳しい状況で、経済的な負担よりも圧倒的に心理的な負担が大きい。コロナウイルスに対する研究はどんどん進めていただく一方で、メンタルのところに関して何かケアするメカニズムを入れないと、今よりも厳しい状況になるのではないかと。

【議事3. AMEDの自己評価（令和元年度及び中長期目標期間）について】

事務局より資料2を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 設立からの5年間に、PD・PS・PO体制によるプロジェクトマネジメントを充実・強化し、適切な研究開発マネジメントに従って、基礎から実用化まで一貫したプロジェクトが実施され、非常にたくさんの成果が上がっている。
- データシェアリングについては、6学会とともに国立情報学研究所が構築・運営する学術情報ネットワーク SINET5 を活用して、臨床画像データベースの構築やAI実装に向けた研究が着実に進展しており、高く評価できる。
- 医薬品創出、医療機器開発については、優れた研究成果に加え、5年間で、研究の質そのものも向上している。医薬品創出においては、業界との密な連携により AMED 主導の産学連携体制が構築され、企業導出に関して5年間のKPI目標を大幅に超える実績を達成するなど、具体的な成果を多数創出していると評価できる。また、医療機器開発では、企業人材の臨床現場への受入など、開発人材を育成する体制の整備を行い、AIを活用した画期的な医療機器などが開発されたことは高く評価できる。
- 再生医療においては、研究課題の臨床研究段階又は治験段階への移行やiPS細胞を活用した新規治療薬の治験開始などの顕著な成果事例が創出されており、オーダーメイド・ゲノム医療については、ゲノム診断の加速化、国内外のデータシェアリング推進のための国際連携とデータシェアリングポリ

シーの拡充、疾患関連遺伝子の同定や日本人の標準ゲノム配列の特定など優れた研究が着実に進められており、今後更なる成果が期待される。

- 国際レビューアについて、全事業部への導入や世界水準の研究を理解するレビューア候補者の登録促進に取り組むなど着実に進展していると評価できる。
- 設立当初はあまり進んでいなかった業務の電子化の取組について、第二期基盤情報システムへの切替えにより、機構外においても機構内と同じ業務システムを利用可能とし、また機構外とのオンライン会議環境を整備するなど、結果として新型コロナウイルス感染症対策としての在宅勤務が可能となったことも踏まえ、評価できる。
- 今回の新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、次の時代の研究開発として、いかに情報を活用した横断的な研究開発を行うかが重要。
- 今後は、デジタル化されたデータのリポジトリ登録を引き続き進めると共に、これらのデータをシェアしたことによりどのような成果につながったのかというメトリックスを加えていく必要が出てくるのではないかと考える。
- 国際戦略の推進については、開発途上国・新興国のみならず、先進国との研究協力においても、日本がイニシアティブを取ることが望ましい。
- 機構の業績は高く評価するが、もう少し分かりやすい形で国民の理解が得られるようにアピールできる機会があるとよい。
- 研究者・評価委員等に加え、機構においても、女性活躍の促進を進めていくとよいと考える。
- 第二期中長期目標期間の統合プロジェクトにおいても、第一期中長期目標期間と同様に、縦横の関係で疾患領域の観点も非常に重要だと考える。
- 国際レビューアの導入は進展しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大によって停滞することの無きよう、これまでの流れを次につなげてほしい。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。